

鹿児島の昆虫48

三島で観察された昆虫たち

薩摩半島南部と屋久島・口永良部島の間
に浮かぶ「竹島・硫黄島・黒島」は、あわせ
て口之三島ともよばれます。三島に渡るには
鹿児島空港と硫黄島空港との間はセスナ機の
チャーター便も
飛びますが、基
本的には三島村
が運営する「フ
ェリーみしま」
を使います。運
航予定は三島村
のホームページ
で確認できます。



フェリーみしま

鹿児島県立博物館や鹿児島昆虫同好会が、
今までにも三島の昆虫を調査してきました。
平成26年には科学技術振興機構（JST）が募
集したサイエンス・パートナーシップ・プロ
グラム（SPP）に採用され、博物館職員が硫
黄島・黒島の小中学生徒と共に「身近なチョ
ウ」を調査しました。その成果と、野外調査
で見られたことなどを紹介します。

過去に三島のチョウを調べた記録は、ほと
んど数日の採集旅行での滞在によるもので
す。しかし、地元ですんでいる小学生・中
学生が毎日観察すれば、研究者にも負けない成
果を上げることができます。たとえば、硫黄
島では2013年までに17種のチョウが確認さ
れていましたが、2014年に新たに9種の新記
録が得られました。その中にはモンキアゲハ
やナガサキアゲハのように、地元ではかなり見
慣れており、児童
・生徒も普通に知
っているチョウが
含まれていました。
これはまだまだ調
査が足りていない
地域である証拠で
す。



モンキアゲハ

黒島にはミカドアゲハが定着しています。
2014年も片泊小中学校の児童・生徒が4月と
6月に採集し、私も5月に幼虫を採集・飼育
しました。ミカドアゲハの幼虫は、オガタマ
ノキというモクレン科の植物の新芽を食べま
すが、この植物は三島の中では黒島にしか生
えていません。したがって硫黄島や竹島には
すんでいません。なぜ黒島にだけオガタマ
ノキが生えているのか、理由が分かりません。

昆虫担当 金井 賢一
約7,300年前の鬼界カルデラを形成した噴火
の影響で竹島・硫黄島では絶滅し、火口から
少し離れた黒島では生きのこったのかもしれ
ません。あるいは鳥が果実を食べて飛んでき
て、黒島で糞と共に種子をまいたのかもしれ
ません。黒島には
鳥が糞で運ばない
であろう、ドン
グリによって増
えるスダジイや
アカガシも生
えており、噴火
を生き延びた
植物がいた可
能性があります。



ミカドアゲハ幼虫

三島の島々でも野山に花が咲き、畑で野菜
や果物が育てられます。しかし、この地域に
はセイヨウミツバチ、ニホンミツバチが生息
していないため、花粉を運ぶのはハナバチや
ハナアブの仲間、チョウやガに頼ることにな
ります。名前も知らないような小さな昆虫で
すが、島の恵みを育てる大事な一員ですので、
大切に付き合っていきたいものです。



アカシラナガツバチ



ハナアブ

秋、硫黄島や黒島には多数のアサギマダラ
が渡ってきます。特に黒島の^{やぐらだけ}榎岳から^{しお}塩
^{てばな}手鼻・^{かたどまり}片泊に通じる林道にはツワブキ・ヤ
マヒヨドリバナが咲き乱れ、そこで吸蜜して
いる姿が見られます。2014年1月には、愛媛
・徳島・南さつま市などから飛来した、標識
個体が確認されました。南へと旅するアサギ
マダラの大事
な休憩地なの
かもしれませ
ん。調査が進
めば、これら
の大切さがも
っと分かるよ
うになるでし
ょう。



ツワブキの咲く林道